

しながわ花海道

勝島運河の周囲約2kmの土手に地域の住民や学校の子供たちでお花畑を作っている。
2002年10月から土手に花の種をまき、春は菜の花、秋はコスモスの花が一面に咲き多くの人が集う地元の名所の新名所となった。



山内容堂の臺所

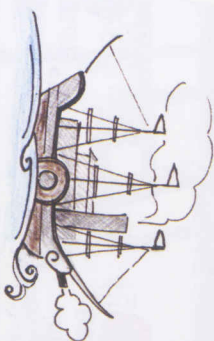
立会川の北側(東大井3丁目)にはかつて土佐藩品川下屋敷があった。15代土佐藩主山内豊信(とよしげ)は安政の大獄で井伊直弼に蟄居を命じられ、この地で3年半を過ごした。幕末期では四賢侯の一人として幕府にも大きな影響を与えた人物。46歳で急逝したが本人の遺言でこの地に眠っている。(立会小学校協) * 幕末の四賢侯 松平健政(福井藩) 島津吉彬(薩摩藩) 伊達宗城(宇和島藩) 山内容堂(土佐藩)



品川縣ビール工場

明治2年、土佐藩品川下屋敷跡(東大井3丁目)に当時の古賀一平品川縣知事は日本で始めてのビール工場を造った。通説では横濱が最初と言われているが歴史の文獻によると横浜より1年前に工場が造られた。経営は軌道に乗らなかつたが品川こそ日本のビール製造の元祖である。当時の品川縣知事等の意思を引き継ぎ「品川縣ビール」として復刻した。(品川区内特定の酒屋さんで販売中！)500円=小ビン

坂本龍馬の原点・浜川砲台



立会川駅から歩いてすぐの源橋(浜川橋)から立会川の河口あたりにかけて、土佐藩の鮫洲抱屋敷があった。川の流れの先は、現在は勝島運河となっているが、かつては世界につながる海だった。この屋敷内には、浜川砲台が築かれたが、ペリーが2度目に来航した際にはあの坂本龍馬も砲台要員として配置されていた。修業のため江戸に出ていた。千葉道場で剣術を学んでいたが、ペリー来航で佐久間象山の門下生となり西洋流砲術を学ぶことになる。ここが原点となり、龍馬は世界を見据えた独自の思想で、周知のような活躍をみせた。

龍馬にとって浜川砲台は、人生のターニングポイントとなる大切な場所である。

* 2004年3月、砲台の石垣の一部と思われる石が発見された。

黒澤明としながわ

黒澤明(1910-1998)は、「羅生門」「七人の侍」など30本の映画作品を撮り「世界のプロサマ」と呼ばれた名映画監督。現在の品川区東大井に6人兄弟の末っ子として生まれ、1918年に新宿区に引越すまでの約8年間をこの地で過ごした。彼はこの品川時代に、初めて映画を見るのだが、それは青物横丁駅近くにあった映画館であったと伝えられている。残念ながらその映画館は残っていない。

立会川にやって来たボラの大群

2003年2月、立会川に突然ボラの大群が現れ、たちまちボラブイバーが湧き起こった。ボラは出世魚。10cmまでをオボコ、イナツコ、スベリ、25cmまでをイナ、50cmまでをボラ、それ以上をトトとその成長に合わせて呼び方が変わる。

立会川にボラがやってきたのは、川の水がきれいになったからだ。JR総武線の地下部分(東京・錦糸町駅間)から湧き出る地下水を川に入れるようになってから、見違えるようになつた。ボラがやってきたおかげで、地元の人々の川に対する意識も変わり、まちは以前にも増して元気になった。

坂本龍馬としながわ歴史マップ

龍馬のまちへ
ようこそ！



この地は幕末、黒船が来航した際「若き龍馬」が通つたと伝わる処です。龍馬が江戸で剣術の修行中にペリーの率いる黒船艦隊が現れました。土佐藩は江戸湾警備で品川に砲台を築き龍馬もその警備陣に加えられた。

砲台の石

この石は、嘉永6年(1853)のペリーの来航を機に、江戸城防衛のために土佐藩が築いたとされ、龍馬も一時警備した砲台の遺構とみられるものです。
—東京都品川区商店街連合会 寄贈—

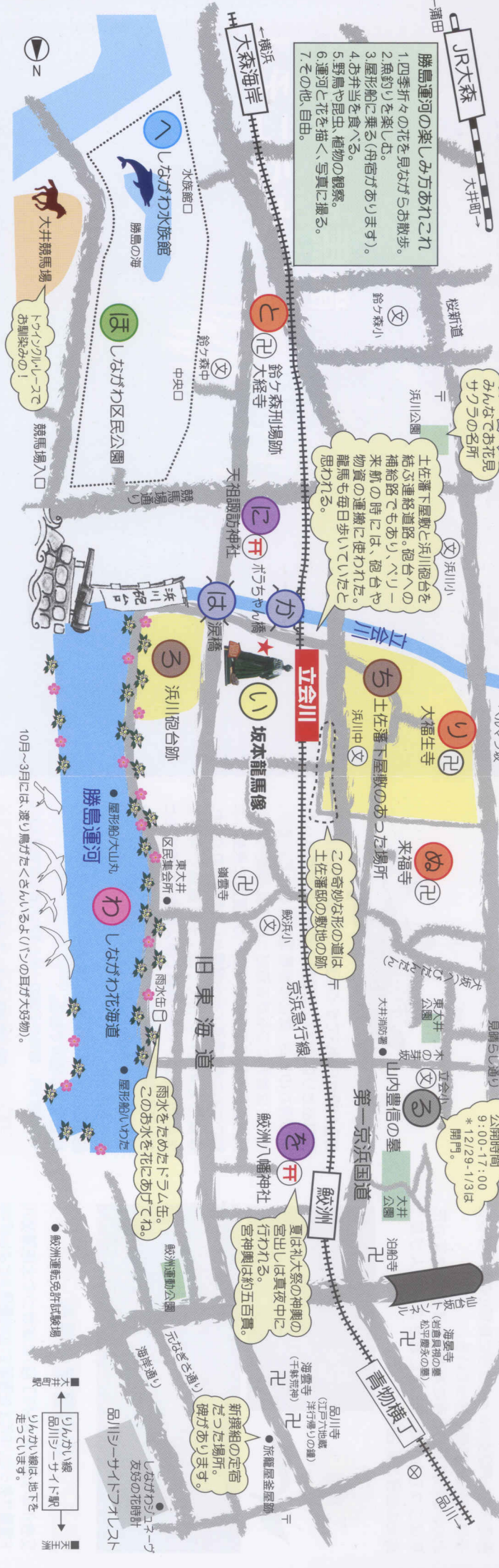


品川から高知の「坂本龍馬生まれた町記念館」へ

父、八平に送った手紙。
品川での黒船警固から、龍馬の幕末は出発したのである。

尊父様御礼
………
異國船処々に参り
候へば軍も近き内と
奉存候 甚節は
異國の書を打ち取り
帰國可仕候 かしこ

龍馬が世界と出会ったまち品川



- 勝島運河の楽しみ方あれこれ
- 1.四季折々の花を見ながら散歩。
 - 2.魚釣いを楽しむ。
 - 3.屋形船に乗る(内宿があります)。
 - 4.お弁当を食べる。
 - 5.野鳥や昆虫、植物の観察。
 - 6.運河と花を描く・写真に撮る。
 - 7.その他、自由。

い 坂本龍馬像(北浜川児童公園)
2004年11月高知市より寄贈された。品川の友好使節団が高知市を訪問した際、浜川砲台の石垣の一部を贈呈し坂本龍馬の像を友好のシンボルとしていただいたもの。

ろ 灯台発見!! (龍馬像のすぐ近く)
江戸湾を見わたせる高さ約6mの古い灯台らしき物を発見。いつ頃造られたか? 鎮座している。

は 浜川砲台跡
幕末、ペリーが来航した際に土佐藩は砲台を築いた。十九歳だった坂本龍馬もここを守備していた。現在は住宅地となっているが宅地造成のとき砲台の礎石が発掘されこの地に鎮座している。

は 涙橋(浜川橋)
鈴ヶ森の刑場に引かれる罪人とその家族がこの橋で涙ながらに別れたといわれる。2008年に欄干の補修と灯籠が新設される。

に 天祖諏訪神社(東海七福神、福祿寿)
立会川をはさんで天祖神社と諏訪神社がそれぞれに祀られていたが昭和40年に合祀され天祖諏訪神社となった。また、東海七福神の福祿寿も祀られており正月には多くの参拝客で賑わう。

ほ しながわ区民公園
品川区内で最大の公園。280本の桜のほか、四季を通じて沢山の花が咲く。人工の池や海そして散策路やサイクリングロードが整備され、大勢の来園者で賑わっている。他に少年野球場、テニスコート、キャノン場、プール(夏季)釣堀等の施設もある。

へ しながわ水族館
イルカやアシカのショーが楽しめる評判の水族館。水中トンネルの水槽には大小さまざまな魚たちが泳ぎ、子供たちもお喜び。

と 鈴ヶ森刑場跡・大経寺
慶安4年(1651)に江戸の刑場として開かれ、槍の名人・丸橋忠弥、平井権八、八百屋お七等が処刑されたところ。現在は、大経寺の境内に処刑に使用した台石やひげ文字が特徴のお題目供養塔などが残っている。

ち 土佐藩品川下屋敷 日本初のビル工場 黒澤 明 監督生誕地
品川下屋敷は立会川から来福寺の南側まで約16,000坪の広大な敷地で、土佐藩が江戸に所有していた7つの屋敷の中で最大の広さであった。明治になってからこの屋敷跡に日本で最初の官営のビル工場が出来た。大正8年にはあの黒澤明監督もこの地に誕生し8歳まで過ごす。

い 大福生寺(ダイフクシヨウジ)
江戸時代中期、老中松平定信が霊巖島(現・中央区)にある吉祥院に祀った歓喜天が始めるといわれている。明治26年に日本橋蠣殻町からこの地に移転。土佐藩の屋敷跡にあったことから土佐山の聖天様と呼ばれていた。

ぬ 来福寺
平安時代中期の創建。かつては鎌倉古道の脇にあり広大な寺領を有していた。江戸時代には桜の名所として知られ、ここから海も臨めた。

る 山内容堂の墓
山内豊信は土佐藩の15代藩主で「幕末の四賢侯」と言われた名君。安政の大獄の際謹慎を命じられ、名を容堂と改め品川下屋敷に3年半監居(ちつきよ)した。この地を愛した容堂の遺言により、ここに眠っている。

を 鮫洲八幡神社
かつて御林御師町の鎮守で鮫洲明神とも呼ばれた。江戸時代に隣町の品川浦とともに江戸城へ鯨魚を納める「御菜肴八ヶ浦」の一つとして賑わっていた。二匹とも口を開けている大変珍しい狛犬がある。

わ しながわ花海道(勝島運河)
地域の人たちによって、運河の周囲に広大なお花畑が作られている。春は菜の花、秋はコスモスの花が咲き水辺を彩る。龍馬像のある高知桂浜にも桂浜花海道の名称で海岸沿いにお花畑があり、こんな所にも龍馬さんが取り持つ縁が嬉しい。

か ボウちゃん橋
平成15年2月～3月にかけて大量のボウが発生して一連のボウ騒動が起こり全国的に立会川が有名になった。当時を思い起こそうという気持ちとボウが泳ぐきれいな川を願う心が反映し、ボウちゃん橋と命名された。

